

電子情報通信学会 第6回「末松安晴賞」受賞

2020年6月4日に一般社団法人電子情報通信学会の各選奨の受賞者が決定し、ネットワークイノベーション研究所の原田 浩樹が「第4世代及び第5世代移動通信システムの無線インタフェース物理レイヤデザインの標準化」に貢献したとして、第6回「末松安晴賞」を受賞しました。

末松安晴賞は、電子情報通信分野における学術、技術、標準化などにおいて特に顕著な貢献が認められ、今後の進歩や発展が期待される若手研究者・技術者・実務家に授与されるものです。

原田は、第3世代以降の移動通信システムの国際標準仕様策定を担う3GPP (3rd Generation Partnership Project) において、第4世代 (LTEおよびLTE-Advanced)、第5世代 (5G) の無線インタフェースにおける物理レイヤデザインの標準仕様策定に従事してきました。具体的には、ネットワークを効率的に高密度化するための要素技術としての「スモ-

ルセル発見・測定技術」、アンライセンス周波数をライセンス周波数と束ねて用いることで通信速度・容量を向上させる「LTE-LAA (Licensed-Assisted Access) 技術」の物理レイヤ仕様策定における多くの技術提案や意見のとりまとめに貢献しました。また、直近の5Gの初期仕様では、端末と基地局との間の接続確立処理や接続基地局選択処理に必要な初期アクセス技術・モビリティ技術の物理レイヤ仕様および端末性能規定の策定を推進したほか、5G端末の物理レイヤ機能実装全体に関する議論の議長を務め、仕様策定をまとめ上げました。

今回の受賞は、これらの活動を通じた移動通信システムの発展・実用化への多大な貢献が評価されたものです。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。

賞 状

原 田 浩 樹 殿

「第4世代及び第5世代
インタフェース物理レイヤ

あなたは電子情報通信分野
において特に顕著な貢献が
期待されますので
末松安晴賞として表彰し

2020年6月4日

一般社団法人
EIC 会長

移動通信システムの無線
デザインの標準化」

の学術 技術 標準化などに
認められ今後の進歩・発展
ここに本会選奨規程により
賞金を贈呈いたします

電子情報通信学会
中 沢 正 隆